

安全・安心の医療・介護実現のため、

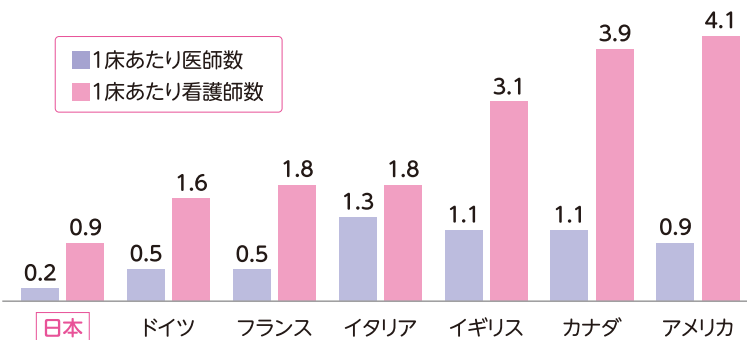
医師・ 看護師・ 介護職員の 大幅増員を

新型コロナウイルス感染の拡大により、入院が必要にもかかわらず入院できない「医療崩壊」や、介護を受けたくても受けられない「介護崩壊」が現実となりました。その根本的な原因は、他の先進諸国と比べても圧倒的に少ない医師や看護師の数、介護職員や保健師の不足にあります。

自然災害時の対応や、新たな感染症に備えるためにも、平常時から、必要な人員体制の確保を国の責任で行うことと、対策の中心となる公立・公的病院や保健所の拡充など機能強化を強く求めます。

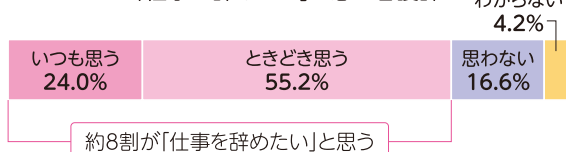
署名にご協力ください

1病床あたり医師・看護師数の国別比較



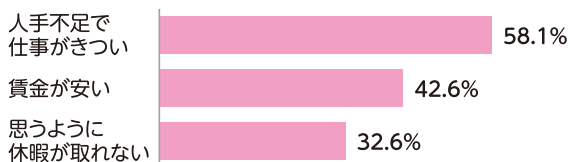
出所「OECD Health Statistics 2020」/「OECD Stat.」

「仕事を辞めたい」と思う看護師



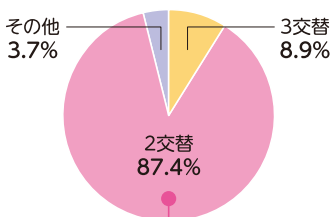
仕事を辞めたい主な理由

※複数回答(3つまで選択可)



出所「日本医労連・全大教・自治労連2022年看護職員の労働実態調査」

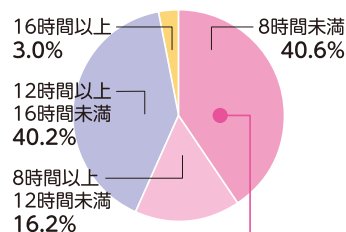
介護施設の夜間勤務形態



この内、78.8%が16時間以上の長時間夜間勤務となっている

出所「日本医労連2022年介護施設夜勤実態調査」

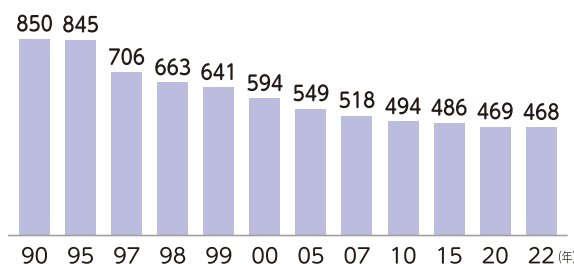
看護現場の短い勤務間隔



勤務終了から次の勤務開始までの間隔が8時間未満では、通勤時間や食事、入浴時間を除くと寝る時間はほとんどない

出所「日本医労連2022年度夜勤実態調査」

全国の保健所数の推移



出所「厚生労働省健康局健康課地域保健室」調べ

安全・安心の医療・介護実現のため 人員増と処遇改善を求める

国会請願署名

衆議院議長 殿

参議院議長 殿

年 月 日

請願趣旨

新型コロナウイルス感染の拡大により、入院が必要にもかかわらず入院できない「医療崩壊」や、介護を受けたくても受けられない「介護崩壊」が現実となりました。これは、感染対策の遅れはもちろんのこと、他の先進諸国と比べても圧倒的に少ない医師や看護師、介護職員や保健師の不足が根本的な原因です。

日本医労連・全大教・自治労連で取り組んだ「2022年看護職員の労働実態調査」結果では、仕事を辞めたいと「いつも思う」と「ときどき思う」の合計は8割にものぼり、仕事を辞めたい理由(3つまで選択)では、「人手不足で仕事がきつい」6割、「賃金が安い」4割、「思うように休暇が取れない」3割、「夜勤が辛い」2割、「思うような看護ができず仕事の達成感がない」2割などと続きました。

毎年のように発生している自然災害時の対応や、新たな感染症に備えるためにも、平常時から、必要な人員体制の確保を国の責任で行い、対策の中心となる公立・公的病院や保健所の拡充など機能強化を強く求めます。そして国民誰もが安心して医療・介護を利用できるよう、保険料や一部負担金の負担軽減も必要です。安全・安心の医療・介護の実現のために、下記の事項を要請します。

請願事項

- 安全・安心の医療・介護を実現するため、医師・看護師・介護職員などの配置基準を抜本的に見直し、大幅に増員すること。また、安定した人員確保のためにも、ケア労働者の大幅賃上げを支援すること。
- 医療や介護現場における「夜勤交替制労働」に関わる労働環境を抜本的に改善すること。
 - 労働時間の上限規制や勤務間インターバル確保、夜勤回数の制限など、労働環境改善のための規制を設け、実効性を確保するための財政的支援を行うこと。
 - 夜勤交替制労働者の週労働時間を短縮すること。
 - 介護施設や有床診療所などで行われている「1人夜勤体制」をなくし、複数夜勤体制とすること。
- 新たな感染症や災害対策に備えるため、公立・公的病院を拡充・強化し、保健所の増設など公衆衛生行政の体制を拡充すること。
- 患者・利用者の負担軽減を図ること。

氏名	住所 (「同上」や「〇〇」は使わないでください)
	都道 府県
	都道 府県
	都道 府県
	都道 府県
	都道 府県

【取り扱い団体】()

※この署名用紙は、国会への請願以外に個人情報を利用されることはありません。